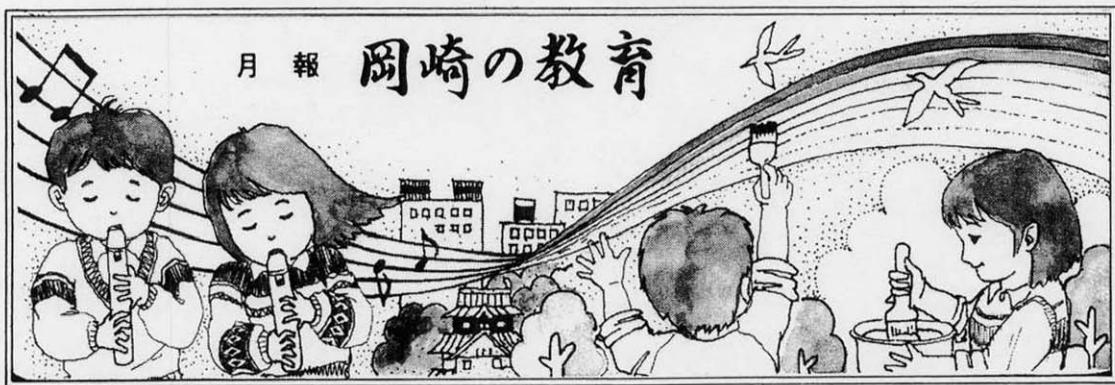


月報 岡崎の教育

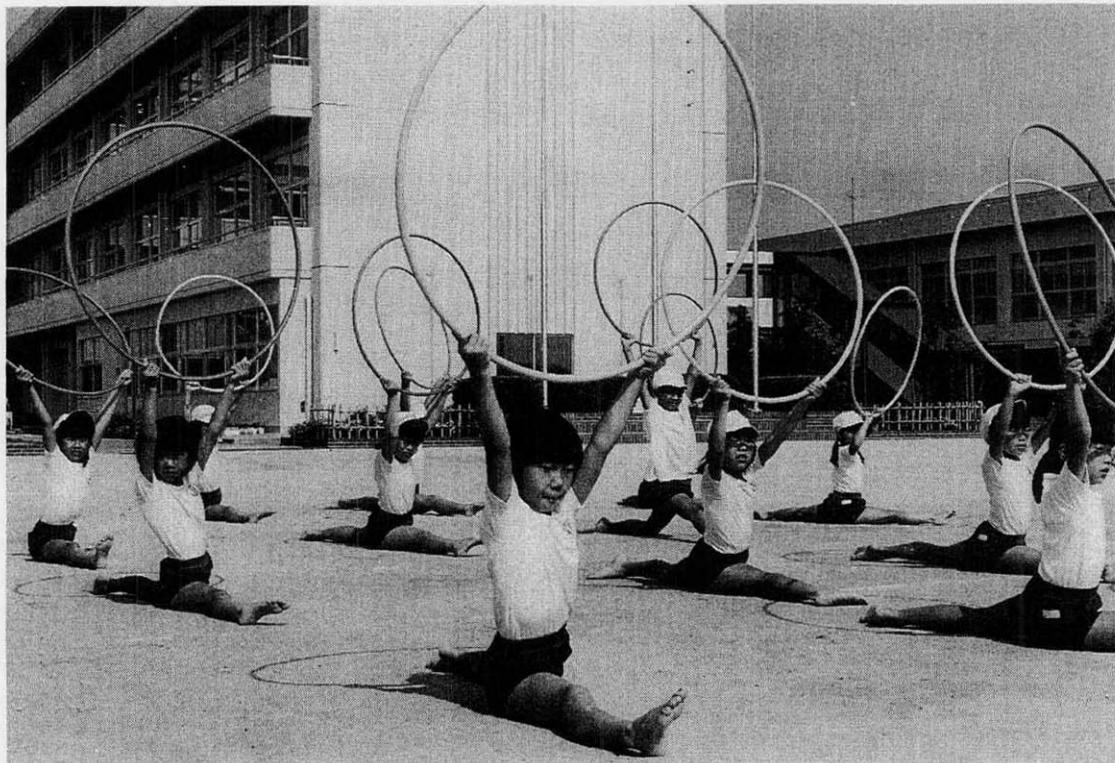


7月号

小さな魔法使いに
魅入られた 子どもたち
もそもそも
ふうん
そもそも
じろつ
そもそも
かくれんば
そもそも
模様がえ
しーつ
そもそも
あと五ミリ
しーん
そもそも
さあ変身！
うわあ
黒いのが
みどりになっちゃった
あおあおした葉の中は
子どもたちの
みどりに そまつた
目で いっぱい

(アゲハのよう虫)

昭和63年7月1日

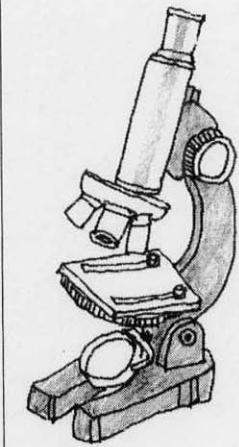
発行／編集
岡崎市教育委員会

(朝の運動 — 小豆坂小)

一 想 隨 教 育

感動の山

飯田保次



本年五月五日、私は終日テレビに釘付けにされた。「チヨモランマがそこにある」が放映されていたからである。

チヨモランマ（英名エベレスト）八八八米は、いまだ世界の最高峰である。この山に中国・日本・ネパール合同登山隊による画期的な登山が敢行された。

即ち北方の中國側からは、北東稜を経て頂上に登り反対の南東稜を下る。同時に南方のネパール側からは、南東稜を経て頂上に登り反対の北東稜を下る。所謂交差縦走と、別のチームが山頂から衛星中継によって、生の映像を茶の間に送るというものである。

五日はいよいよ登頂の日で、先発の縱走隊につづいて撮影隊が、一〇時五〇分重い器材を背負って最終キャンプC7（八六八〇メートル）を出發した。第二ステップを登り切り、三角雪田を登つてゆく様子が、

取る如く眺められ、私は感激に打ちふえた息をのんで見つめていた。

このような尖鋭的な登山には到底足りず長らく登山を重ねてきた。昭和二年夏初めて穗高の涸沢を訪れた日、そこから仰いだ北穂から前穂につづく大岩壁のあまりの壯觀さに完全に圧倒され、たゞ呆然と見とれていた。この時の感動があまりにも強かつたが故に、以後四年にわたり日本アルプスに登りつづけて

きた。白銀に輝く嚴冬の山々、のどかな春の日につつまれた残雪の山、夏の烈日がするどい活動的な山、そして紅葉に色どられ澄み切った秋の山、いづれもその

ベースキャンプの望遠レンズにより時々刻々と画面に映し出される。三角雪田から頂上につづく容易に見える雪稜を進んでいるのだが、頂上まで後五〇メートル付近から進み方の、のろいのにはらはらさせられた。無理もない。三角雪田の上で隊員の酸素ボンベは既に空になっていた。

この高度では空気の濃度は地上の三分の一以下である。悪戦苦闘をつづけている様子に、各キャンプの全隊員が固唾をのんで見守っている。この思いは私の胸にもいやという程伝わってきた。生と死の極限を越えて死闘の果て、午後四時三四分遂に頂上に到着した。全キャンプで一斉に感激の歓声がわきあがつた。この感動は到底筆舌につくられるものではない。

さらに頂上から送られてきた三六〇度の視界を、雄大そのもので、ヌプツ大パノラマは、雄大そのもので、ヌプツ・ローネ・マカルー等の巨峰が手に

氣迫のこもつた先生の演技
道徳指導員 大久保 正



五月半ばのT小学校二年生の道徳の時間。担任の若い先生が遠足の持ち物を入れたりリュックサックを提示しながら、「何が入っているかな。」

「弁当。おやつ。…………水筒。」「ところで、水筒に何が入っているかな。」

「言いながら、コップにジュースを注ぐ。」「あつ。ジュースだ。」

子どもたちの注視の中で、ジュースを飲み始める。

「先生、するいやあ。するいやあ。普通なら、ここで先生はジュースを飲むのを止めるはず。先生は、子どもたちの抗議を無視して、ジュースを飲み続ける。

御岳の一角に立ち、見渡す限りの山又山た。しかし九ヶ年にわたる懸命のリハビリの結果、昨年の夏私は再び北アルプス

の登山を一度は断念せざるを得なかつた。しかし九ヶ年にわたる懸命のリハビリの結果、昨年の夏私は再び北アルプス

の登山を一度は断念せざるを得なかつた。しかし九ヶ年にわたる懸命のリハビリの結果、昨年の夏私は再び北アルプス

の登山を一度は断念せざるを得なかつた。しかし九ヶ年にわたる懸命のリハビリの結果、昨年の夏私は再び北アルプス

の登山を一度は断念せざるを得なかつた。しかし九ヶ年にわたる懸命のリハビリの結果、昨年の夏私は再び北アルプス

の登山を一度は断念せざるを得なかつた。しかし九ヶ年にわたる懸命のリハビリの結果、昨年の夏私は再び北アルプス

の登山を一度は断念せざるを得なかつた。しかし九ヶ年にわたる懸命のリハビリの結果、昨年の夏私は再び北アルプス

歌

齋藤すみ子 氏

歌人の齋藤すみ子さんは、岡崎の街を眼下に見ることができる小高い丘のマンションに居を構えておられる。六月の日曜日、短歌には縁遠い取材者の訪問にも快く笑顔で迎えて下さった。

齋藤さんは、附属小の事務官の仕事をため夜になることが多い。そして「こんな面白いこともやつたのですよ」と語られる頃には喜びがあふれていた。

「ことしの四月に、国営木曽三川リバーガーデン開園記念行事で『曲水の宴』が企画され、私が平安時代の女官役で小桂・垂髪の格好で短歌を読むことができました。メンバーは、中の会の者が中心でした。曲水の宴とは、平安時代の大宮人の遊びです。今回の行事では、現代短歌より王朝風のものと心が現れています。

それは、所属の会、指導のグループを数えただけでも分かる。

現在は、短歌の世界では最高位と言われる現代歌人協会をはじめ、現代歌人集会、中日歌人会、歌人集団・中の会に所属し、中の会の事務局長でもある。また、内に歌を作り、しかもそれを短冊に書く

ふるさとシリーズ
この人に聞くー




後進の指導にも精力的に当たられ、地元岡崎だけでなく、名古屋、西尾など七つのグループを持つていて、土、日はそのスケジュールでつまっているとのことである。

「全国を五つのブロックに分けた。そのうちの一つの『中の会』は中部日本の超結社の短歌の集まりと言つてよいでしょう。現在四百人近くの会員がいますが、最近では、若い人達とくに学生の入会が増えているのは、うれしいことです。これは、俵万智の『サラダ記念日』の影響でしようね。彼女のは、口語体の短歌ですが、とにかく若い人達が短歌をやってくれないと駄目になつてしまふのですよ」

ふともらす言葉には、若手の成長を祈る気持ちが感じられた。

齋藤さんの短歌作りは、昼は事務官の仕事のため夜になることが多い。そして「こんな面白いこともやつたのですよ」と語られる頃には喜びがあふれていた。

「この道に入つたきっかけは、終戦後、岡崎小学校の教壇に立つていたときになりました。新聞の短歌欄に応募したら、最初の作品で特選になつたからです。それから数十年、いろんなことがありましたがこれからも続けていくつもりです。日本語の持つている複雑さ、こめられた感情は文語体でないと出でこないのです」

と言葉を結ばれた齋藤さんである。

(生年月日)

昭和四年二月十四日

(住 所)

岡崎市梅園町二丁目十一

ロイヤル梅園ガーデンB-405

生徒の心を開く鍵

生徒指導員

澤 博史



夕風の爽やかなシビコの広場で、M男に出会った。M男は二十歳になる。三年の四月転校してきたが、すでに一通りの非行は体験済みの教護院帰りであった。

しかし、今は立派に立ち直っている。しばらくベンチで話し合つた。その後を、ピアスをつけた黄色い髪の少女が通つて行く。彼は感慨深げに話し始めた。

「僕も中学時代は、あんな風だった。毎日先生に、髪を直せ、ズボンを直せと言われ、家庭訪問されたな。先生のしつっこさにはまいつたよ。でも、嬉しかつた。

先生、今の子らに教えてほしい。社会で生きることがどれだけ大変か。今あんなことをやつていたら食つていけないよ」

彼らの多くは、劣悪な家庭環境の中で生きている。立ち直ろうとしても立ち直れない者もいる。あいつがいなかつたらと教師が思えば、彼らは必ず見抜く。そして、心を閉ざし、ますます荒れていく。彼らの指導には、決して見放さず、とことん接触していく根気と情熱こそが、互いの心と心を結び付けていく。生徒の心を開く鍵は、教師の温かな心しかない。



▲宮ノ腰1号古墳（洞町宮ノ腰）

本年4月9日現地説明会が行われたばかりの古墳。このままでは、開発のため、早晚消えていく運命にある。

(60)

最近、宮ノ腰古墳の発掘調査がおこなわれ、話題となつた。開発のため、すぐにもとりこわされる運命にある。岡崎には数多くの古墳があつたが、土地開発や道路開通のため、いくつかが消えていった。

そうしたなかで、歴史のあけぼのとしての古墳を、今の時点で記録に留めておきたい。今回、岡崎市史考古編の編集委員中根洋先生の貴重な写真の提供を受け、現状の古墳と、三十年近く前の、いわゆる発掘当時の写真とを対比させるかたちで変りゆく古墳の一断面をとらえてみた。



▶火の穴古墳

（美合町流レ）



発掘当時(上写真)の、須恵器などが見える状態。現在は、緑ヶ丘小(下写真)に移築された。



▶溝地古墳 (北斗台団地)



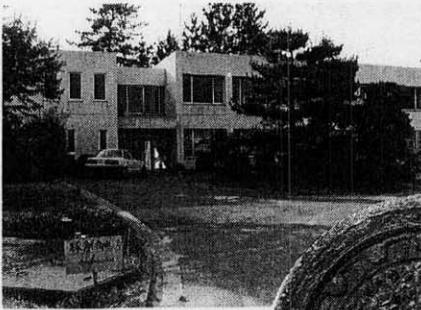
上写真は、18年前の貴重な写真である。現在は北斗台団地となり、古墳そのものは細川小(下写真)に移築された。



▶雨戸古墳 (細川町上屋敷)



昭和59年発掘当時(上写真)の状態をそのままに、新香山中の中庭(下写真)に移築された。



亀山二号墳
(丸山町亀山)

画文帶神獸鏡（右写真）が出土した亀山2号墳は、現在、種畜場（上写真）になっている。



神田1号墳（真福寺町中ノ坂）▶

20数年前の発掘現場（右写真）からは想像できない今の家具工場入口（上写真）。



失われた古墳



八反田古墳
(仁木町八反田)

開発のために失われた八反田古墳（上写真）。現在は、北斗台の排水塔が立っている。



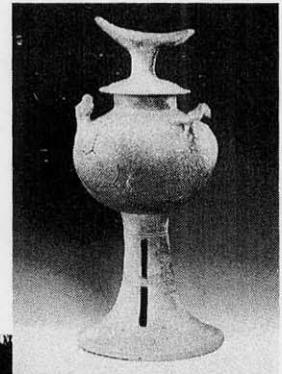
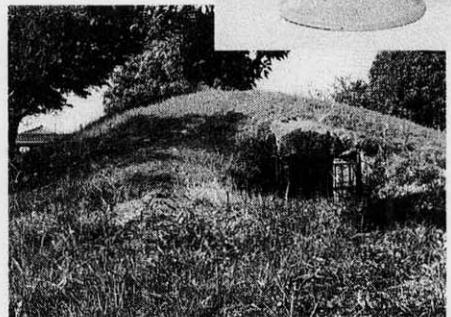
中ノ坂九号墳
(東名高速沿い)



東名高速道路の工事中に発見された中ノ坂9号墳（上写真）。現在（下写真）も、道路沿いの繁みの中に口を開けている。

現地保存の貴重な古墳

岩津一号墳
(岩津町西ノ坂)



祭礼用の土器（上写真）などが多数出土した岩津1号墳は、まわりの開発が進む中、一部はけずられているが、現地に保存された（下写真）。

竹トンボづくり

六名小 田村実千子



88 6 2

「お母さんに貸してごらん」
恐る恐る小刀を持つ子どもの姿

に思わず手を出したお母さん。

「子どもの頃はいつもこうやつて削っていたよ。」

母親の手つきにマジックでも見ているかのように驚く子ども達。

「親子がふれ合いながら学ぶ」

ことをテーマに行われた授業参観で、五年生は竹トンボを作る

こととした。聞いてみると、今

までに小刀を使ったことのある

子はわずか三人。多くの子たち

にとって小刀は初めて手にする

もので、緊張しているようだっ

た。大丈夫かなと心配しつつ、

「飛ばしてみていい」

という声が聞かれるようになつた。あいにく外は雨。廊下で試

してみる。

「お母さんの方があつたし、豆ができるのにやつとるだよ。」

いつのまにか親の方が夢中になつていた。それでも、子ども達も小刀に対する恐怖心は薄らぎ、扱い方も大胆になってきた。

「飛ばしてみていい」

三十分ほどすると、

五月一日、A男からの葉書が届いた。

A男は、病氣入院がもとで、登校を拒否するようになつた。

黒板を見ることに抵抗があり、

授業を始めた。小刀の扱い方を説明した後、まずは練習にて鉛筆を削る。やけに芯を長くしてしまった子、不格好な鉛筆になってしまった子、

「天井についたよ」

子どもたちの顔が輝いた。

物に囲まれて育つた子どもたちには、買ったものがなければ遊

べりを創り出せる遊び上手になつてほしいなと思つた。

「朝から大あくびをしており、

学校への登校は時間がかかる。」

何度も家庭訪問をして、彼と話しあつた。初めは、あまり話

したがらなかつたので、学校や友達の様子を話して、肩をたたいて帰ることにした。

次回は、学校の話題になると

しかめつらになるが、彼が興味をもつているパソコンの話題

には集中し、その他の雑談もで

きるようになつた。

そんな家庭訪問であつたが、

彼の話に耳を傾け、私も話した。

とにかく、彼の話を聞き、勉強と深く係わつていて私の心を開いてくれることを願つて。

「よいよ一学期の終わりである。

少しずつ勉強の話ができるようになつてきたので、通知票になつた。

「学校へ来たら、きっと成績が上がるだろう。がんばれ。」

と書き、様子を見た。すると、

「先生、夏の学習相談はいつ。」

と思い、時間帯や内容、自分の

勉強に対するコンプレックスが原因のようであつた。

彼を待つた。しかし、そう期待通りにはいかなかつた。

月が過ぎ、三年生に進級した。

ハートビアの先生のお話によると、

「朝から大あくびをしており、私はとび

とのことである。

何度も家庭訪問をして、彼と

話しあつた。初めは、あまり話

したがらなかつたので、学校や

友達の様子を話して、肩をたたいて帰ることにした。

次回は、学校の話題になると

しかめつらになるが、彼が興味をもつているパソコンの話題

には集中し、その他の雑談もで

きるようになつた。

そんな家庭訪問であつたが、

彼の話を聞き、勉強と深く係わつていて私の心を開いてくれることを願つて。

「よいよ一学期の終わりである。

少しずつ勉強の話ができるようになつてきたので、通知票になつた。

「学校へ来たら、きっと成績が

上がるだろう。がんばれ。」

と書いてきた。これはチャンス

教室などをていねいに説明し、

彼を待つた。しかし、そう期待

通りにはいかなかつた。

そこで再び、家庭訪問。

「先生と一緒に勉強しないか。」

「夜ならないよ。」

「お母さんがやりたくてし

かたないんだもん。私にやらせてくれない。」



A男の再出発

城北中 山本 满夫

「学校がとても楽しい。今、テニス部に入り、帰宅は、夜十時過ぎです。……」

五月一日、A男からの葉書が

A男は、病氣入院がもとで、

登校を拒否するようになつた。

黒板を見ることに抵抗があり、

教室などをていねいに説明し、彼を待つた。しかし、そう期待通りにはいかなかつた。



通りにはいかなかつた。

そこで再び、家庭訪問。

「先生と一緒に勉強しないか。」

「夜ならないよ。」

「お母さんがやりたくてし

かたないんだもん。私にやらせてくれない。」

「先生、夏の学習相談はいつ。」

と思い、時間帯や内容、自分の

お知らせ



〔寄贈刊行物・資料等〕

・稲葉 道彦

(連尺小)

五日 市役所出発(大阪泊)

・パトリック・スミス

◆戯言

コピント上製本 萩野卓郎著

・飯見 紀男

(福岡小)

六日 大阪空港発

北京市内見学

七日 呼和浩特市内見学

・ピーター・ステイブンソン

◆峰

コピント印刷

嶋田 稔著

・中山悠久夫

(大樹寺小)

八日 呼和浩特市内見学

・ケイト・ライアン

◆桜

B6 三二二ページ

中根 洋著

・伊藤弥世子

(葵中)

九日 中学生との交歓

・サラ・イーグル

◆山田

一恵 (河合中)

・白井 紘子

(河合中)

十日 大草原

・太田 邦明

・ハンセン夫妻

◆福島

幸雄氏 (新香山中)

・小田 紀夫

(美川中)

十一日 少年宮参観

・松坂 敬子

・生平小、鳥獣保護功労者として表彰される。

◆元NHKアナウンサー

福島 幸雄氏 (六ツ美中)

・後藤 孝範

(六ツ美中)

十二日 万里の長城見学

・白井 紘子

生平小は永年の野鳥保護活動が認められ、財団法人日本鳥類保護連盟より表彰された。

明日の岡崎を考える

第十五回

岡崎市民大学

—会場は岡崎市民会館ホール—

本年度は「岡崎市民会館ホール」を会場にして、岡崎市民大学が開催される。

◆期日と講師

①七月二十四日(日)

「分子の世界」

分子科学研究所長

井口 洋夫氏

②八月七日(日)
「これからの宇宙開発」

科学技術評論家

村野 賢哉氏

③八月二十日(土)
「放送席から見たスポーツの心」

スポーツの心

- 多年勤続表彰の先生方
市内小中学校に多年勤続(二十五年)の教職員として、七月一日の市制記念日に表彰を受けた方々は次の通り。
- ①上山 春平氏 (京都国立博物館長)
②宇野 仁 (岩津中)
③多湖健太郎 (六ッ美中)
④由良 隆幸 (河合中)
⑤大畑 恵 (矢作北中)
⑥小楠 典子 (竜海中)
⑦三井 好美 (矢作中)
- 教師
①伊藤正典 (城北中)
②向野 誉 (常磐中)
③平山律子 (竜南中)
④後藤恭子 (北中)
⑤後藤恭子 (北中)
⑥白井直美 (葵中)
⑦倉橋孝光 (常磐中)
⑧ニユーポートビーチ市中学生
ニユーポートビーチ市中学生
使節団来岡
使節団六名が、六月二十九日より六日間岡崎に滞在した。
- 児童・生徒数
男 13,431 女 12,867 計 26,298 県 43 市 7
男 7,650 女 7,510 計 15,160 県 22 市 10
男 21,081 女 20,377 計 41,458 県 65 市 17
男 21,409 女 20,880 計 42,289 県 67 市 19
- 事務職員
男 13,431 女 12,867 計 26,298 県 43 市 7
男 7,650 女 7,510 計 15,160 県 22 市 10
男 21,081 女 20,377 計 41,458 県 65 市 17
男 21,409 女 20,880 計 42,289 県 67 市 19
- 区分
小学校 中学校 合計
62年度計

・表紙写真
・カット

小豆坂小
六名小

細井由美子
鈴木育男
山本繁子

岡崎の教育の足どりを日清時代から今に至る形でまとめられた本として、『岡崎教育史要』はよく知られている。この史要に先立つものとして『岡崎教育小史』の存在も忘れてならないものである。

大正十一年は学制がしかれて五十周年にあたった。これを記念し、岡崎の教育の歴史をまとめたのが『岡崎教育小史』である。B六変型版六十八ページ、大正十一年十月三十日の刊行で、発行所は岡崎市役所となってい。扉には十二葉の写真を配し

岡崎の教育の足どりを日清時代から今に至る形でまとめられた本として、『岡崎教育史要』

梅園、連尺などの当時の姿を見ることができる。

明治以後、大正十一年までの岡崎の各学校の開設までの経緯やその後の統廃合のさまが手際よく記されている。また、記述は公立学校にとどまらず、私立学校や社会教育にまで及んでい

る。岡崎市立図書館、岡崎市教

育会、岡崎市育英会などの頃も

あり、小史とはい、明治・大正の岡崎教育界をとらえる上で

格好の書である。昭和十二年に本書の改訂版が出され、やがて史要へと受け継がれていった。

は本書の改訂版が出され、やがて史要へと受け継がれていった。

“叱れ、怒るな”と、日々自戒

している。

怒ることはたやすいが、叱ることは難しい。感情に任せていれば怒ってしまう。「叱る」というには、教え導く心がなくてはならない。

怒ることばかりがまだ多い身を恥ずかしく思う。

（あと五m、がんばれ）
（ほら、あと一m、もうひと息）
タッチ。——「おめでとう」、「やったね」
とかけ寄るクラスメート。
（おめでとう。明日から君は白帽だよ。）



學制頒布五十季記念

岡崎市
康生通南
鳥山将平氏蔵

この本を

*教室に魅力を

大村はま
国土社
¥1500

*日本は世界を知っているか

長田庄一
江藤淳
サイマル出版会
¥1300

*「文藝春秋」にみる昭和史

文藝春秋編
各¥2500

*名人たちの世界

近藤唯之
新潮社
¥480

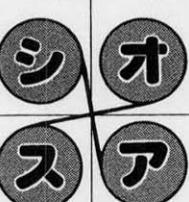
*休文芸私抄

水上勉
朝日出版社
¥1400

室町期の禪僧一休和尚の生涯は、未だ闇の部分が多いといわれる。これは和尚が残した数多くの著作のなかに、自己についての自伝的文章がないためという。

本書は、著者がこの和尚の実像を少しでも知ることを願い、和尚の残した詩歌集を中心にして、その姿をさぐろうとしたものである。

著者の和尚追究の気概が窺える書であると共に、『とんち一休さん』の波乱に富んだ人生を知ることができる。



水泳指導、真っ只中。二十五m完
成に挑む子。
（あと五m、がんばれ）
（ほら、あと一m、もうひと息）
タッチ。——「おめでとう」、「やったね」
とかけ寄るクラスメート。
（おめでとう。明日から君は白帽だよ。）

（あと五m、がんばれ）
（ほら、あと一m、もうひと息）
タッチ。——「おめでとう」、「やったね」
とかけ寄るクラスメート。
（おめでとう。明日から君は白帽だよ。）